





「さあ主さま…ペコリーヌさまの
こちらはまだ準備ができております♡
あとは主さまのお慈悲を待つばかり♡」

「コッロ、ちゃん…だめです…
こんな…ああ…♡」

く…ぽ…♡

ぬちあ…♡

「はあ...はあ...」
「ああ...このままじゃ...」
「お、おちんぼ入っちゃいます♡」

「今日初めてあった人なのに...」
「ユウキくんじゃないのに...♡」

「身体に全然力が
入らなくて...ああ...♡」

く...ぽ...♡

ぬちあ...



「さあ、さあ、さあ王女様の
ロイヤルサービスをいただきますーす♡」

「あーあーあーめー」





「Mama's Kiss~♡」

「おおちんぽ…奥まで届いて…
子宮とキスっ…
しちゃってます…っ♡」

キュン♡
キュン♡

♡ぬち♡

♡ぬち♡

「わたしはユウキくんが♡」

「おーおーまたユウキくんか。
モテモテだねえ。
そんな男捨てていつと俺に乗り換えちまえよ」

「♡♡ 誰が、あなたになんか♡♡」

「ふーヤドの口はそんなに
歓迎しててくんなあ」

「ひあぁ♡♡♡ あっ♡♡ あっ♡♡
あひっ♡♡ だめっ、ぬ、ぬいてくださっ♡♡
あっ、あっ、あぁっ♡♡」

ズン♡♡

ズン♡♡

「どうです。クリーヌさま、
主さまのおちんぽさまのお味は♡」

「あひっ♡ あっ♡ あっ♡ あんっ♡
ふあっ♡ お、おちんぽっ、すこおっ♡ お、おっ♡
はふいん♡」

ゼッ

ゼッ

ズッ♡

ズッ♡



「あッ、あッ、あッ♡ そんなに強くされたらっ♡ あッ♡
お、おまんこっ♡ こわれちゃいますっ♡
あッ♡ あッ♡ あんッ♡」

「王女様となるくらい「まで優秀なのかな」。
もう「発田」までさっだーの」



「だ、だめっ、なかには出さないでくださいっ♡
なかに出されたらっ、あ、あかちゃんができちゃいますっ♡」

「あー、王女様孕ませたらその子が
次の王様ってことなんのかね？
やっ、今更で興奮してきたっ！
出すぞっ！ー おら、俺のザーメンで
お世継ぎ孕んでまえよ、王女様っ！ー」

「あぁっ、だめっ、だめだめだめっ、だめえっ！ー♡」

ゼッ

チッ

ズッ♡♡♡

ズッ♡♡♡



（な、なかあ……♡ びゆるびゆるって男の人の
精液中に出されちゃってますぅ♡
だめなのに、わたし王女なのにつ♡）

（これって、あつたかくてすくシマワセになっちゃいますっ♡
ああ、気持ちいい♡ 気持ちいい♡ 気持ちいい♡）



「うおっ！やっべえ超出る……
王女様に種付けたまんねえ！」

「ああさすがは主さま……なんと嬉しい……
よかったですね、ペコリー又さま。
今日は「晩中主さま」のご寵愛を
賜れるようでございますよ♡
きつとペコリー又さまは立派な雌奴隷になれますね♡」

「うあぁ♡ うあぁ♡ これ、おなか
いっぱいになっちゃってます♡ ひあぁ♡」

「ははっ、こんなに出たの久々だわ……
よしや今日は「晩中王女様」の
お相手を務めさせてもらおっかな♡」

「あっ……そんな、わたし……わたし、はあ……♡」
（たすけて……ユウキくん……これ以上されたら、
わたしきつともどれなくなってしまう……♡）



『はひっ♡ はあーはあー♡』

『ああ…ペコリ…又さま…♡
とても淫らで素敵な姿で…おられますよ♡』



「もう一度聞かせて、王女様。」
「エステルアナが愛してるのは誰だ？」

「わたし……わたしがあいしてるのはあ……」



「えへえっ♡ あなたあーあなたです♡
ユースティアナ・ラフォン・アストライアが
愛してるのはあーあなたですよ♡」

「わたしに子宮にどろどろのザーメン流し込んで、
ランドツルの新しいお世継ぎ、産ませてくださいい♡」

「うっは、熱烈な愛の告白。こりゃあ俺も
お世継ぎつくり頑張らねえとなあ?」

「ああーなんと羨ましい♡
主さまーどうかわたくしにも
主さまのお慈悲をお恵みください♡
わたくしにも主さまのお子を授けてくださいませ♡」

「ははっ、じゃあ次はコソコロちゃんだな。
そっちで尻向ける。ユースティアナはちょっと休んでな」

「あーは、ひびー♡」

「はび、主さま♡」



さようなら、ユウキくん...
わたしが好きだったひと...!!





























